



GUNBOH

群 萌

第190号 2017年7月31日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒105-0021 東京都港区東新橋2-16-1

ルーシスビル402号室

TEL 03 (6452) 8806

FAX 03 (6452) 8807

発行責任者 寺前 敦司

編集者 化学総連事務局

gs03@kagaku-s.com

～産業課題と労働課題～

全国化学労働組合総連合
会長 寺前 敦司



化学総連は、自らの力で化学産業の課題を認識しながらその解決に向けた政策提言を行い続けることを目標に、2017・2018年度活動方針に沿って、特に産業課題と労働課題について注視してきました。

今年の産業課題としての大きな話題は、5月30日に成立した化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)の改正でした。平成23年の全面施行以来となる今回の改定に際し、化学総連は経済産業省と環境省の開催する小委員会や日本化学工業協会などから情報を得つつ、2017年2月にパブリックコメント(パブコメ)を提出しました。さらには、与党政務調査会経済産業部会長の上野賢一郎衆議院議員にご尽力をいただき、法律を管轄する経済産業省化学物質管理課に対して、化学総連の提出したコメントを直接伝える機会を得ることができました。このような我々の活動が、日本の商慣行に配慮した化審法改正の一助となったのではないかと自負しています。

また5月12日には土壤汚染対策法の一部を改正する法律も成立しました。成立後、初めて開催された土壤制度小委員会で委員長が「今までは必要以上に厳しかった」とコメントしたように、今回の改正では様々な点について大きく緩和されます。そのため改正は2段階で行われ、軽微な変更は平成30年4月1日、重要な変更は平成31年が予定されています。

それから2016年10月にルワンダにおいて開催されたモントリオール議定書第28回締約国会合にて、ハイドロフルオロカーボン類(HFC)の生産及び消費量の段階的削減義務が採択されました。そのため、これら化合物を規制する国内の法的仕組みが経済産業省並びに環境省にて検討されています。HFC類はオゾン層を破壊するクロロフルオロカーボン類やハイドロフルオロカーボン類の代替品として冷媒・洗浄用途で広く使われてきましたが、地球温暖化係数が非常に高いため今回規制対象となりました。しかしながら、新たな代替品に目途がついておらず、次世代品の開発が急務となっています。

法制化の前段として議論がされている話題として

は、生物を用いた水環境の評価・管理手法があります。

2010年から検討されているこの手法は、工場等からの排水が、藻、甲殻類、魚類の3種3品目に対して悪影響があるのか否かを目安にして、排水の良し悪しを評価します。しかしながら生物の発育観察という評価手法で、発育不良原因を特定し排水改善へとつなげようとする試験法の妥当性もさることながら、人体に影響のない管理規制をクリアしている排水への新たな規制の必要性、高額な試験法を企業が負担する必然性などへの疑問は残されたまま、現在も環境省にて検討が進められています。

労働課題の新しい話題は、仕事と育児の両立支援に係る総合的研究会が厚生労働省にて始まったことです。この研究会は、働き方改革実行計画において「女性の就業が進む中で、依然として育児・介護の負担が女性に偏っている現状や男性が希望しても実際には育児休業の取得等が進まない実態を踏まえ、男性の育児参加を徹底的に促進するためあらゆる政策を動員する。このため、育児休業の取得時期・期間や取得しづらい職場の雰囲気改善など、ニーズを踏まえた育児休業制度の在り方について、総合的な見直しの検討に着手し、実行していく」と記載されたことに由来しており、年内に結論を得ることが目標です。そのタイミングで実施の想定されるパブコメに向けて、化学総連としても提言できるように努めていきます。

化学総連はこの一年間、化学産業の課題を認識するべく、このような活動を通じて研鑽を積み、そして政策提言へとつなげてきました。これからも、化学産業界はもとより他産業の皆様にとってもより良い社会となるよう、化学総連に集う組合員の目線から意見してまいりますので、従前にも増してのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、まだまだ暑い日が続く、現場によっては40度を超えるところもあると聞きます。水分と塩分をしっかりと取るよう声をかけあって、共にこの夏を乗り切っていきましょう。

化学総連活動報告

【第4回海岸林再生ボランティア】

- 日 時：2017年6月9日(金)～10日(土)
- 場 所：宮城県名取海岸
- 参加人数：9日(金)97名 10日(土)52名

今年度で4回目となるオイスカの海岸林再生プロジェクトのお手伝いに参加してきました。9日(金)については全積水労働組合連合会の皆さん45名と一緒にボランティアを行い総勢97名と大規模な参加となりました。天候悪化の心配もありましたが、二日間とも晴天に恵まれクロマツの成長を妨げる「つるまめ」の除草を行いました。作業終了後、参加者同士で「きれいになってクロマツが大きく成長してくれるといいね!」と声を掛け合っていました。



【2017年度タイ・ベトナム労働事情調査団】



- 日 時：2017年6月18日(日)～24日(土)
- 場 所：タイ王国(バンコク、ラヨーン)
ベトナム社会主義共和国(ハノイ)
- 参加人数：24名



今年度の海外労働事情調査団は、タイ・ベトナムを訪問し、化学総連加盟企業の訪問、現地駐在員との懇談会、市内視察などの労働事情調査を、デンカ労組からの参加を含む23名にて行いました。工場見学や懇談会では現地の労働・生活環境について、業務のやりがいや現地社員との接し方、休日の過ごし方、本国への期待や要望など意見交換しました。市内視察ではショッピングモールや市場を視察し、日本との物価や食文化の違いについて学びました。

【第3回勉強会】

- 日 時：2017年6月20日(火)
- 場 所：福島県 福島再生可能エネルギー研究所(FREA)
- 参加人数：19名

エネルギー・税制委員会主催にて、福島県の福島再生可能エネルギー研究所(FREA)の視察を行いました。この研究所は水素、風力、太陽光、地熱など6つの研究チームを編成し研究を行っており、研究戦略として地元福島県や近隣の他県、大学、国内企業が連携を行っています。「化学産業として、再生可能エネルギーへ貢献できるものは何か」を考える良い機会となりました。



【第4回勉強会】



- 日 時：2017年6月28日(水)
- 場 所：化学総連事務所 会議室
- 参加人数：20名

環境安全委員会主催にて「地球温暖化対策：日化協の取り組みについて」と題し、一般社団法人日本化学工業協会(日化協)の春山常務をお招きし、ご講演いただきました。世界と日本の地球温暖化対策の取り組みや、日化協が今後取り組んでいく活動計画などを聞くことができ、今後の化学総連の活動についても参考となる勉強会となりました。

【第3回書記長・事務局長会議】

- 日 時：2017年7月3日(月)
- 場 所：化学総連事務所 会議室
- 参加人数：20名

今回の議題は、働き方改革を中心とした労働政策に関する意見交換として、政府が掲げる9つのテーマより「時間外労働の上限規制の在り方など長時間労働の是正」について厚生労働省労働条件政策課の藤枝課長をお招きしご講演いただき、出席者は理解を深めようと積極的に質問していました。その後、働き方について各単組での取り組みや課題について論議し、今後の取り組みに繋がる情報交換を行いました。



【第86回調査担当者会議】

- 日 時：2017年7月4日(火)
- 場 所：マテックELV石狩、
ホテルサンルートニュー札幌
- 参加人数：20名

我々化学産業の製品が多く使用されている自動車の、解体・破碎、資源化まで一貫処理が可能なりサイクル工場であるマテックELV石狩を視察しました。解体工程では部品毎1つ1つ丁寧に解体・分別され、その後破碎と資源化の工程となり、特に資源化では再資源先を配慮した処理が行われていました。視察後は、2017春闘結果や2017年度労働条件基本台帳更新依頼、オプション調査結果について情報交換を行いました。



【第9回コンビナート政策交流会】

- 日 時：2017年7月21日(金)
- 場 所：三菱ケミカル株式会社大竹事業所、
安芸グランドホテル
- 参加人数：45名



今年度は、日本のコンビナート発祥の地である山口県、広島県にまたがる岩国大竹地区で開催しました。三菱ケミカル株式会社大竹事業所を見学し、意見交換会では関係省庁、地元行政、更には両県出身の国会議員、参議院議員の柳田稔氏、衆議院議員の平口洋氏、参議院議員の森本真治氏の3名をお招きし、化学総連役員及び地連代表者と情報の共有化を図りました。産業政策に関する国・地方行政の取り組みや労働者側の主張を忌憚なく意見交換し、理解を深める交流会となりました。